

研究室紹介
INSTITUTION,
MEMBERS AND
WORKS

[研究室紹介]

日本大学工学部土木工学科

計画系研究室

交通計画研究室 堀井雅史

はじめに

日本大学工学部は、昭和4年に東京神田駿河台に日本大学専門部工科が設立されたのに始まる。そして昭和22年に福島県郡山市へ移転され、24年の新制大学への移行と同時に第二工学部として土木工学・建築・機械工学・電気工学・工業化学の5学科を設置した。その後、昭和41年に工学部と改称し、平成5年に情報工学科の増設により、現在の6学科となっている。

本学部は、東北新幹線で東京から1時間20分の福島県郡山市に位置し、阿武隈川の清流に沿って約39万平方メートルの広大なキャンパスを有している。

本学部のある郡山市は、東北縦貫、東北横断自動車道や、東北新幹線を始めとするJR5線が交差する東北南部の交通の要衝にあり、平成5年の福島空港の開港とともにその重要性は年々高まり、現在人口32万人と東北地方第3番目の都市として発展を続けている。

土木工学科における計画系カリキュラムおよび研究室

土木工学科は、現在教授7名、助教授9名、講師5名、助手2名の合計23名の体制である。各分野ごとに計画に係わる講義を担当されていると思うが、第IV部門に該当する教員は1名である。

土木工学科では、前述の情報工学科増設に伴い、平成5年度から大幅なカリキュラムの改訂が行われた。その主な特徴は建設コースと計画コースの2コース制をとったことである。このため計画に関する教科を増やし、現在あるいは今後重要となる計画的素養を充実させることを目標としている。

計画系の講義科目として、都市計画は設立当初から開講されており、第二工学部からの経緯で示すと、新田亮(昭和24~30年度)、浮洲実(31~39年度)、町田保(41~42年度)、竹重貞蔵(43~50年度)の各先生が講義を担当された。その後土木工学科の講義を、建築学科の今は亡き足立和夫教授が担当され、希望者がいれば卒業研究の面倒を見ておられた。したがって本学科における計画系研究室はこの足立教授によって昭和52年度に創設されたという。土木工学科における計画系研究室は、昭和58年に堀井雅史が東北大学大学院を修了して助手として赴任し、建築学科の学生とともに都市計画研



写真—1 交通計画研究室のメンバー

究室として本格的にスタートした。昭和63年に堀井が講師になると同時に土木工学科での都市計画研究室として独立し、平成4年度には交通計画研究室と改名して現在に至っている。その間昭和63年のカリキュラム改訂で土木計画学が設置され、平成5年からの新しいカリキュラムでは都市計画から都市・交通計画への改名、景観工学、環境アセスメント、土木史、リモートセンシングの新設など計画系の科目の充実が図られている。

本学科での計画系研究室は前述のとおり、交通計画研究室のみであり、現在スタッフは堀井と研究生1名、学部生9名の小所帯でこつこつと研究を行っている。

研究活動

交通計画研究室の現在まで取り組んできた研究テーマは大きく分類すると地方都市における交通問題、道路網評価となる。以下に各分類ごとのテーマについて紹介する。

1) 地方都市における交通問題

- ・駐車場配置計画
- ・積雪都市における交通流特性
- ・地方都市における飽和交通流率と交通容量
- ・冬期交通事故
- ・都市内道路における快適性

2) 道路網評価

- ・自然災害時における道路網評価
- ・快適性を考慮した都市間道路網評価

現在は積雪都市における旅行速度予測モデルの構築とその適用、快適性を考慮した都市間道路網評価方法、地震後の道路網復旧過程の定式化などに重点を置いて研究を行っている。

おわりに

本学部土木工学科における計画系研究室は年数も浅く、しかも教員1人であり、毎年9~10名の学部生の面倒を見るのは大変である。幸い東北大学の福田正教授の

アドバイスや年数回勉強会を開催している東北地方の大学・高専の若手の先生方のご協力もあり、なんとか試行錯誤を繰り返しながら研究に励んでいる現状である。今

後さらに実務レベルに密着した研究を続けていきたいと考えている。

(1993.12.13 受付)